

外部評価委員会結果記録書

令和 8 年 3 月 1 0 日作成

評価年月日	令和 8 年 2 月 1 6 日 (月)
評価の概要	<p data-bbox="472 510 1114 546">1 令和 7 年度上半期のEMS取組結果について</p> <p data-bbox="491 586 1362 721">温室効果ガス排出量の削減を目標として掲げている以上、削減目標は達成しなければならない。色々大変なこともあると思うが、頑張ってもらいたい。</p> <p data-bbox="491 788 1362 972">基準年度が令和 2 年度となっているが、コロナ禍で活動が制限されていた時のエネルギー使用量を平準値として使うことが適切か検証し、令和 12 年度までそのままとするのか、基準年度を変更するのか、検討されたい。</p> <p data-bbox="491 1039 1362 1272">省資源について、前年の実績より削減・抑制していくことを目標とすることは良い取組だが、何らかの事情で実績が増加した時が問題である。次年度、増加した数値を削減しても、何年間かのトータルで見た時には減っていない場合もあるので、削減・抑制という表現が適切か検討されたい。</p> <p data-bbox="491 1339 1362 1572">電力使用量を下げるには、ハード面で家電等を省エネタイプにするなど、ドラスティックに変えていかなければ、なかなか数値に現れない。2030 年度までに変えることが可能か考えないと、温室効果ガス排出量の削減目標を達成するのは難しいのではないかと。</p> <p data-bbox="491 1639 1362 1872">業務を行っている以上、電力や紙の使用など、最低限必要な量を維持する必要がある。我慢して使用量を減らすのではなく、再生可能エネルギーの導入や植林など、地球環境への負荷を減らすという考え方や、減らすだけでなく育てるといった考え方も視野に入れてもらいたい。</p> <p data-bbox="491 1939 1362 2074">夏の猛暑は、生死にかかわる問題となっている。電力を使わないよう、エアコンの温度を調整できないようにしすぎることは、働く人にとってベストなのか。</p>

評価の概要	<p>令和7年度上半期の結果としては、よく頑張っている。職員もEMSの取組が日常化しており、減量や節約の意識がなくても、自然な状態に対応できている。</p> <p>2 令和7年度のEMS事務局監査の結果について</p> <p>環境研修実施記録書を作成していない場合の評価を「要検討」としているが、文書管理が適正になされていない場合の評価は「不適合」又は「要改善」ではないのか。結果区分の評価を検討されたい。</p> <p>監査員は、一定した判断が必要となってくる。主観的な評価ではなく、優良なのか、そうでないのか判断しなければならない。監査員の能力向上を図ってもらいたい。</p> <p>3 令和8年度の政府実行計画に準じた5つの取組について</p> <p>太陽光発電設備の設置は、エネルギー使用量削減の観点から、設置可能な建築物の50%と言わず、設置できるところには全て設置する意気込みで取り組まれない。</p> <p>PPAにより、太陽光発電設備を導入することは、県にとっても事業者にとっても、お互い良い形である。県内の地元企業や、地域の中に利益が回っていく形を選んでいただきたい。</p> <p>再生可能エネルギー電力の調達取組内容について、「排出係数の低い電力の調達手法について検討する」となっているが、最初から再生可能エネルギーでないものを検討することは取組として、どうなのか。再生可能エネルギー電力の調達が先ではないのか。</p>
-------	---